

開催概要

■令和5年度 第2回吹田市障害者福祉施設等整備補助事業者選定委員会

<日 時>

令和5年（2023年）11月29日（水）15時30分から17時

<場 所>

千里市民センター2階 大ホール（千里ニュータウンプラザ内）

<出席委員>

委員長、B委員、C委員、D委員、E委員

※ 5名中5名出席により、会議は成立。

<議 題>

障害者福祉施設等整備補助事業者の選定について（書類審査・プレゼンテーション審査）

<会議要旨>

- 1 委員会開会
- 2 諮問
- 3 応募者によるプレゼンテーション審査
- 4 主な質疑応答

○委員

厚生労働省でも入浴支援の話は出ている。気になった点は事業計画の障害福祉サービス等の利用見込量について、生活介護の中で入浴サービスを行っている事業所はあるが、このコロナ禍で中止する事業所が増えている。入浴に特化した加算があるものでもなく、そこに人を配置しなければならないということで、運営的に定員20人に対して利用者確定数14人で全員が毎日来て利用率は約70%となる。風邪やインフルエンザ等で全員が毎日来ることができない方もいると思うので、運営上非常に厳しく、財政的などところにも懸念するところと思った。

●応募者

確かに利用人数については厳しい。このコロナで一番影響を受けた。障がいを持っている

方は免疫力が非常に低く、私たちもできるだけリスクを避けたいといけなくて、毎日来ていた利用者が週3日になるなど、回数が減ることは今も続いている。ただ、現時点では利用者は16人おり、協議書の提出後の9月と11月に1人ずつ増えた。利用者を増やす活動が7月までは全くできない状況であり、我々の業界において、まだ感染対策を続けていかないといけない状況で、事業所を閉めないといけない日が増えるのではないかと思います、弱気なところから数字が低くなっている。しかし、利用者の入浴に関してはかなり依頼がある。需要については、希望者は相当数いると思われ、受け入れていきたいと思う。職員の人数についても、訪問に関してヘルパー事業も行っているため、兼務して指導を行えるので、安定した支援者の確保は可能だと思う。

○委員

財務状況について、コロナ禍で収益が落ちてしまったとのことだが、2022年度の事業報告書と2023年度の事業計画書を見ると、生活介護事業を単体で見ると、かなりマイナスになっているように見える。2024年度以降一気に回復していくというような考えなのか。多角的にいろいろな収益の柱をもって法人自体を運営されていくとのことだが、生活介護事業が赤字であった場合は、例えば不動産事業での収入や暗号資産のマイニング事業で、カバーするというのか。また、2027年度から借入れの返済がかなり大きく、年間で1千4百万円を超える額になっているが、具体的にどういう計画で返済されるのか。

●応募者

各財務状況の書類については、2022年度の活動実績から出している。来年度の予測はコロナ禍でどうなるかわからないということで少し弱気に設定し、今の状況が推測されなかったためこういう数字となった。活動計算書の中で最終的に正味財産増減額がマイナス約2千万円計上されている。2022年度の活動計算書では約1億8千5百万円の計上で、コロナ禍前の2019年度が約1億9千8百万円を計上しており、それだけで約1千3百万円は回復できると踏んでいる。残りの部分はマイニングや不動産も多角的には考えているが、先ほどの生活介護者の2名増員もプラスの要因になる。今回の整備事業の入浴に関しては、問い合わせも多いことから十分に利用者は見込めると考えている。また、現時点ではまだ行っていないが、共生型放課後デイサービスの認可も取っており、そちらの事業も手掛けていきたいので、こちらの集客も見込め、正味財産増減額の回復は見込めると考える。

●応募者

今も別途、新規の利用者の問い合わせが2件ある。年内には無理とは思いますが、数か月間で4人の増加となる。コロナ禍でできなかった各相談支援事業所への声かけも行うので、何人かは声がかかってくると考えている。共生型放課後デイサービスもできるだけやりたいということで申請はしたが、コロナ禍で申請したので、児童の感染を考慮できていなかったが、落ち着いてきたので、今後は児童の受け入れも可能と思う。放課後デイサービスも入浴の依頼があるので、それも含めると利用者数はかなり見込めると思う。ヘルパー事業については、ここ2か月で2人程男性が入っており、徐々に訪問の方も回復している。

なお、暗号資産について補足すると、これは我々が売り買いしているものではなく、マイニングといって専用のパソコンを委託業者にお願いして見ていただいて、その手数料をもらっているだけのもの（手数料として暗号資産でもらっているだけ）。

○委員

極端に言えば暗号資産の価値が0になれば損になるが、億単位での実績があるということなので、あまり心配しなくても大丈夫ということか。

●応募者

絶対ということはない。少なくとも2017年から実施し、去年は下がっているが、去年の年末の時点で約15万円になり、今年も今の時点で約30万円になっているので、波はあると思うが、今後資産価値は上がると思う。売買して儲かろうとか他の暗号資産に替えようとかは知識がないので、あくまでも福祉事業とは別の所で安定した財源としてのもの。

○委員

法人として大きなお金が必要になった場合には、解約などしてお金に換えることもあるのか。

●応募者

最悪の時は売却して現金に換えることもあると思う。

○委員

入浴について先ほど話があった、1人当たり15分で脱衣、入浴、更衣の全てを行うのか。

●応募者

今回の入浴設備に関していうと、シャワーはカタログにも記載があるとおり、4分間で全て洗えるが、業者が言うには脇と鼠径部だけはシャワーで洗いにくいので、この浴槽に付いている窓を覗きながら手を入れて洗うことになる。また、着替え等は利用者の身体の状況等にもよるので5～10分程度かかると思うので、1人当たりの全入浴時間は、余裕を見て約30分程度と思う。当方の事業所が定員の20人満員になったとしても1日8～10人は入浴可能と考えている。支援者が慣ればもう少し増やせるかもしれないが、リフトがあっても体力にも限界があるので10人程度が限界と思う。

○委員

1人当たり30分であれば、時間的には10人で5時間なので、昼食後に入り始めて夕方までかかる。その間、介助に2人程度はかかりきりになると思われる。お湯代や光熱水費のコストがかかるサービスであると思うので、1回の入浴で別料金でもらってもいいと思った。

●応募者

料金については他の事業所にも確認したが、1回当たり光熱水費として500円程度もらっているとのことだった。もらわないと厳しいと思うので、光熱水費としてはもらうことになると思う。それ以外の別料金の予定はない。

○委員

入浴に関して今後光熱水費相当の利用料が発生するということで、そうになると事業収支計算書に利用料収入が記載されていない。また、支出として今回の事業の結果上がる光熱水費分を入れていかないといけないのではないかと。

●応募者

こちらの認識不足であったと思う。

5 応募書類及びプレゼンテーションの内容に基づく委員の採点

→ 応募があった1者について、各委員の採点を集計し、平均点を算出した結果、選定が可能な点数（110点満点中83.4点）であった。

6 審議

→ 選定が可能となる点数を獲得した1者を、国庫補助協議対象の候補者として選定することについて審議し、選定することに委員全員が合意した。

7 答申

→ 応募者Aを、令和5年度吹田市障害者福祉施設等整備補助事業者（令和6年度整備分）の国庫補助協議対象の候補者として選定する旨の答申を受けた。